

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

代表質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
1	公明党 小池 伸吾	1. 大規模地震による災害時の対策について	<p>(1) 大規模地震を想定した場合の本市の被害予測は。</p> <p>(2) この度の能登半島地震からの教訓として、どのような備えが必要と考えるか。</p> <p>(3) 避難所環境のあり方について、市の考えは。</p> <p>(4) トイレトレーラーの導入を提案するが、市の考えは。</p> <p>(5) 福祉避難所についての体制は。</p> <p>(6) 本市におけるBCPの実効性は。</p> <p>(7) 現在の災害廃棄物処理計画の内容とその有効性は。</p> <p>(8) 防災訓練の今後の在り方をどう考えるか。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

代表質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
2	未来創政の会 矢崎 俊秀	1. 大規模地震災害から市民の命と暮らしを守るために	<p>近年、全国各地で大規模地震災害が多発していることから首都直下型地震や南海トラフ地震の前兆にあるとした「専門家の指摘」が報道されている。また、気象庁の地震発生に関するデータベースでは、2011年3月11日の東日本大震災から、本年1月に発災した6年能登半島地震災害を含めて震度6弱以上の地震災害は僅か13年間で31回発生している。中でも、震度6強以上の地震は15回発生しているが、このうち震度7以上の巨大地震は3.6年に1度の驚くほどの頻度で延べ5回発生している。まさに「地震の世紀」を迎えていると言っても過言ではない。そして、繰り返される地震災害で何よりも見逃せないことは、「地震は自然現象」それを災害にしたのは「人が作り出している現象」と専門家の指摘した事態を招いている。その結果、多くの住民が尊い命を失って、大規模地震のたびに都市機能と都市構造物の瓦解を招いて「防災や救助避難」などの防災対策全般に渡って同じ課題や問題を繰り返している。そこで、本市策定の南アルプス市国土強靱化地域計画や耐震改修促進計画などの防災対策は、令和6年能登半島地震や南海トラフ地震などの大規模地震に有効に機能するのか。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

代表質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
2	未来創政の会 矢崎 俊秀	2. 木造住宅の耐震性能が劣化した経緯についてどの様に対応するのか	<p>耐震化が思うように進展しないが、その背景要因に、建築基準法の耐震規定が昭和56年6月1日及び平成12年6月1日に改正されている。この経緯で課題とするところは、既存の建築物について、改正建築基準法に適合しなくても既存不適格として特例的に建築物の使用を認めている。このことが、都市の中に危険建物と健全建物が混在して、健全建物を巻き込んで、大規模地震災害時に建物の倒壊が招く大火災と延焼を発生させて尊い命や尊い財産を失っている。この関係性から木造住宅の耐震改修の遅れから生じる災害は、都市災害要因として捉える必要性があるが市はどの様に考えるのか。</p>
		3. 国土強靱化地域計画の執行体制の強化について	<p>私は昨年12月議会に於いて国土強靱化地域計画の進捗状況について質しましたが、各所管課において適切に予算執行や進捗管理を行っているとは根拠を示さずで答弁された。しかし、令和3年3月策定の国土強靱化地域計画の推進期間を概ね5年間と定めて、既に3年経過して進捗率は60%を超えていなければならないがそのような進捗に無い。また、国土強靱化地域計画の影響の最小化の目標が不十分で、そのうえ建築物の耐震化の遅れと共に消防や上下水道の応援協定が機能しない事態が判明している。さらに、医療環境の万全性についても、同議会で当局は説明を回避して無回答にある。つまり、何もやっていないと言える。従って、このような事態にあるのは、統括主管部が不明で権限が各部に分散されている事に由来していることは明白である。そこで、改めて国土強靱化地域計画の万全性のためには執行体制の強化と権限の強化の再構築の必要性があるが市はどの様に考えるのか。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

代表質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
2	未来創政の会 矢崎 俊秀	4. 都市計画を活用した防災まちづくりについて	<p> 全国地震災害事例からも明らかなように、脆弱な都市構造の改善を怠ると、同じ問題や課題の繰り返しになる恐れがある。そこで、都市災害を減災するための本市の土地利用状況について俯瞰してみると、市内の各地域で、中世期ごろからの町割りや屋敷割が残されていることから、既存集落区域において間口の狭い、狭隘宅地や、狭隘な道路が継承された都市構造にある。つまり、狭隘な宅地の連担がもたらす街区の密集性と、その密集街区に建てられた耐震性を欠く木造住宅が二重に脆弱性を高めている。このため予測される大規模地震に対して極めて危険な都市構造にあることから、土地利用の規制や改善で都市の強靱化を図る新たな政策の必要性をどの様に考えているのか。 </p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

一般質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
8	新政南アルプス 村松三千雄	1. 南アルプスユネスコエコパーク登録10周年にあたっての取り組みについて	<p>本市は、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的とするユネスコエコパークに本市の全域が平成26年6月登録され、自然保護と観光の両立や地域文化の保全など、市の活性化に繋がる事業を積極的に推進してきている。</p> <p>また、令和6年6月から次の10年が始まることから、改めてユネスコエコパーク理念が、本市の自然の恩恵を活かした魅力あるまちづくりの根幹になると考えており、これらを踏まえて。</p> <p>(1) 今年の6月、南アルプスユネスコエコパーク登録後、満10年を迎えるにあたり、これまでの各種取り組み状況と成果は。</p> <p>(2) 令和6年度南アルプス市行政経営方針において、「南アルプスユネスコエコパーク登録10周年を迎えることから、改めて理念の普及に努めるとともに、市民に分かりやすい取り組みを実施するなど、日常生活においても南アルプスの自然環境の保全について意識を高める」としているが、今後の取り組みの具体策は。</p> <p>(3) 南アルプス市の全域が、南アルプスユネスコエコパークの核心・緩衝・移行地域となっている中で、今後10年、本市は中部横断自動車道、リニア中央新幹線、コストコなど企業誘致と、大きく社会構造が変わることとなる。そこで、「第3次南アルプス市総合計画」策定にあたっては、様々な施策や事業に南アルプスユネスコエコパークの理念を解りやすく取り入れていく必要があると考えるが、市の方針は。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

一般質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
8	新政南アルプス 村松三千雄	2. ふるさと納税への取り組みについて	<p>(1) ふるさと納税の寄付額は、令和3年度約16億、4年度は約22億と年々大幅な増額となっている。ふるさと納税のお礼の品は、南アルプスの大地で育まれたフルーツなど地域の特産品をPRし、全国へその魅力を発信するためとして地域の特産品等を贈呈している。 そこで、寄付額の増額を目指した令和5年の取り組み状況と、今後の取り組みは。</p> <p>(2) 本市の企業版ふるさと納税については、「南アルプス市まち・ひと・しごと創生寄付金事業として、事業年度を令和2年から6年度までとし、4つの基本目標の達成に向けた事業を展開しているが、これまでの取り組み状況と成果は。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

一般質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
9	躍進会 花輪 幸長	1. 農業生産関係者の確保について	<p>農家の減少には歯止めが掛からず技術の伝承も含め農業の生産性の向上や担い手不足の解消は喫緊の課題である。 その対応施策として、いままで比較的検討されなかった耕作面積が少なく小規模経営の農家への新たな育成策を推進すべきであると考えているが市の考えは。</p>
		2. 認知症対策としての農業の活用について	<p>認知症対策として農作業へのかかわりも有効であると思われるが、市の現状の取り組みと今後の対策について市の考えは。</p>
		3. 移住者の農業への誘導について	<p>移住希望者の農業への関心は少なからずあると推認する。また、市として農業も含めた移住施策は重要と考える。移住希望者の農業への関心度とそれに対する市の施策は。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

一般質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
10	<p>躍進会 野中 國幹</p>	<p>1. 荒廃農地、遊休農地の解消に向けた取り組みについて</p>	<p>令和元年12月議会で北村議員が行った一般質問の関連質問において、オリーブ栽培についての支援策を質問した。その答弁は、県の補助金を活用し、耕作面積を増やし他の果樹と同様な対等果樹になれるようになった後、市の方で力を入れていくとの答弁だった。その後、耕作面積が増加しているか、あるいは県の補助金を活用しての支援策はあったか。</p>
		<p>2. 鳥獣害対策について</p>	<p>鳥獣害対策に伴う大型囲い罟の質問を令和2年3月議会で行ったが、この時点では成果も充分上がり、効果が得られているとの結果であり、現状を検証していくとの答弁であった。しかし、その後の状況を観測すると、大型囲い罟の周辺にサル等の群れは確認されるが、「檻」の中へ入る気配は見られず効果が得られていないと推測する。そこで、大型囲い罟の改良を行い捕獲に効果が上がるという、遠隔装置が開発されているが、その検討は考えられないか。</p>
		<p>3. 小笠原橋へのモニュメント設置について</p>	<p>令和4年9月議会において、小笠原橋へのモニュメントの設置について質問した。その後の小笠原橋の改良工事の進捗状況と、モニュメントの設置について県との協議状況は。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

一般質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
11	松野 昇平	1. 「小1の壁」問題について	<p>小学校入学を機に、子どもの居場所に困り、仕事との両立が難しくなる「小1の壁」問題について、原因のひとつに、小学校に入学してからのほうが、子どもの預かり時間が短くなってしまふことが挙げられる。その解決策として、放課後児童クラブの土曜日開所や長期休み中の開所時間の繰り上げ等が考えられるが、市の所見は。</p>
		2. 公共施設の活用と発展について	<p>(1) 旧白根桃源美術館について、国の登録有形文化財としての価値を担保しながら、開放施設としての利活用や民間活用をするといった考えはあるか。</p> <p>(2) 南アルプス市健康福祉センターは、保健福祉、支所、児童館といった都市機能が集約されている。他方で、交流施設としての発展のためには、飲食スペースなどの空間整備や、世代間交流や若者向けのイベント事業に取り組むなどの柔軟運営が必要と考えるが、市の所見は。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

一般質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
11	松野 昇平	3. スクールソーシャルワーカーについて	<p>子ども達が抱える教育的課題を解決するためには、早期発見、早期介入の必要がある。また、学校現場に入り込んで、教職員とともに、子ども達に寄り添う伴走型の支援が必要である。そこで、体制整備として、スクールソーシャルワーカーの常駐化及び「拠点校型」「巡回型」配置などの検討が必要と考えるが、市の所見は。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

一般質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
12	保坂 健	1. 不法投棄対策について	<p>不法投棄は、生活環境の保全や景観に大きな支障を与え、その原状回復には、多大の費用と時間を費やすもので、不法投棄が一旦起きてしまうと、原状回復することは容易ではない。全国的にも不法投棄は大きな課題となっているなか、市内においても耕作する農地へ、2トンダンプで6、7台分の「土砂」が不法投棄された事案も発生している。処理には多額の費用がかかるとのことである。そこで、不法投棄の現状等について問う。</p> <p>(1) 本市における不法投棄の実態をどのように把握しているのか。</p> <p>(2) 不法投棄物の処理については、どの様に対応しているのか。</p> <p>(3) 不法投棄防止のための監視活動等の対策はどのように行われているのか。</p> <p>(4) 不法投棄防止対策として、自治会や市民にどのような啓発をしているのか。</p> <p>(5) 今後は、より効果的な不法投棄防止対策を講じていくことが必要であると考えているが、その対策は。</p>

令和6年 南アルプス市議会 第1回定例会（3月）

一般質問通告表

質問 順位	質問者	質問事項	質問要旨
13	小林 敏徳	1. 本市の観光事業について	市長が考えている、観光事業とはどのようなものか。
		2. 市長3期目の残り3年間のビジョンについて	3期目の1年が過ぎようとしている。残り3年間のビジョンは。
		3. 白根インターチェンジ周辺の開発について	南アルプスインターチェンジ周辺の開発はある程度見通しがついた。 白根インターチェンジ周辺の開発はどのように考えているのか。